

参同契

竺土大仙の心

東西密に相附す

人根に利鈍あり

道に南北の祖なし

靈源明に皓潔たり

支派暗に流注す

事を執するも元これ迷い

理に契うも亦悟にあらず

門門一切の境

回互と不回互と

回してさらに相渉る

しからざれば位によって住す

色もと質像を珠にし声もと楽苦を異にす

暗は上中の言に合い

明は清濁の句を分つ

四大の性おのずから復す

子の其の母を得るがごとし

火は熱し

風は動揺

水は湿い地は堅固

眼は色

耳は音声

鼻は香

舌は鹹酢

しかも一一の法において

根によつて葉分布す

本末すべからく宗に歸すべし

尊卑其の語を用ゆ

明中に當つて暗あり

暗相をもつて遇うことなかれ

暗中當つて明あり

明相をもつて觀りことなかれ

明暗おのおの相對して

比するに前後の歩のごとし

万物おのずから功あり

当に用と処とを言うべし

事存すれば函蓋合し

理応ずれば箭鋒拄う

言を承てはすべからく宗を会すべし

みずから規矩を立することなかれ

触目道を会せずんば

足を運ぶもいづくんぞ路を知らん

歩をすすむれば近遠にあらず

迷て山河の固をへだつ

謹んで参玄の人にもうす

光陰虚しく度ることなかれ